

縄文時代から栄える文化



日本の最先端をいく縄文文化

町内で確認されている最も古い遺跡「山本遺跡」は、およそ1万5000年前の旧石器時代のもの。ナイフ形石器・彫刻刀形石器・打面再生剥離片・石刃などが出土しています。また、西会津町を含む会津西部は、東北・北陸・関東の文化が混じり合う地域であり、独特の文化が発達しました。なかでも、芝草・小屋田遺跡、上小島遺跡からは火焰土器と王冠型土器が出土されており、「会津タイプ」と呼ばれています。これらの土器は、縄文時代から弥生時代にかけて最も創造性と多様性が見られる土器として注目されており、当時の西会津町の人々は日本の最先端の文化を担っていたとも言えるでしょう。

▼山本遺跡出土品



▼芝草・小屋田遺跡出土品（撮影・小川忠博）



西会津町の歴史は、およそ1万5000年前にまで遡ることができます。町のいたる所で縄文遺跡が発掘され、また会津の霊地としてふるくから信仰を集めてきた歴史があります。



西会津町の豊かな自然を護る「山の神様」

土地のおよそ84%を山林が占め、豊かな山々が広がる西会津町。

山の神様として信仰を集める「大山祇神社」は、「一生に一度の願いは3年つづけてお参りすれば、なじよな（どんな）願いもききなさる（かなえてくれる）」と言われ、年間30万人もの参拝者が訪れています。特に、毎年6月に開催される「大山まつり」は多くの観光客でにぎわい、真冬の寒い時期は、山の神様を水源とする川に晒した風味豊かな西会津産のそばが味わえます。また、本社まで続く4kmほどの参道は「ふくしま遊歩道50選」に登録されており、2つの滝や樹齢400年を超える杉並木も。自然のなかでリフレッシュできるトレッキングルートとして人気を集めています。



会津仏都の祖・徳一大使が創建した如法寺

西会津町を代表する観光地のひとつ、鳥追観音如法寺。平安初期に、会津に仏教を布教した徳一大使が会津の西方浄土のために創建したと伝えられています。鳥追観音は、「会津ころり三観音」のひとつ、また「会津三十三観音番外格」の結願所として、子授け・安産・子育て・厄除け・健康・長寿などのご利益があるとされ、多くの人の信仰を集めています。

